

# グラフ うつくしま

【特集】

コラッセふくしま始動

第21号

隔月刊 奇数月1日発行





①布引高原の大根畑(郡山市)  
布引山の嶺に広がるなだらかな高原。その一面に広がる大根が、収穫を待っています

郡山市観光物産課 ☎024-924-2621



③あづまスキー場付近の紅葉(福島市)  
吾妻連峰の山肌に、赤や黄を幾重にも塗り重ね、燃えるように色づく紅葉が広がる景観は見事です  
福島観光協会 ☎024-525-3722



④海竜の里・久之浜漁港まつり(いわき市)  
水揚げされたばかりの魚を焼いた味わいは格別  
ではの祭りに、笑顔も弾みます(10月19日開催)  
(社)いわき市観光物産協会 ☎0246(27)2871 港なら



②木戸川溪谷の大文字草(楢葉町)  
涼しげな清流と数多くの滝、奇岩怪石のある  
溪谷を訪ね歩くと、やがてかれんな大文字草  
に出会えます

楢葉町商工観光課 ☎0240-25-2111

#### グラフ うつくしま 第21号

表紙の写真/彼岸花と田園風景(塩川町)  
彼岸花が咲くころ、その傍らには、稲刈り作業  
が進む田園の風景が広がり、実りの秋の訪れを  
感じさせます(撮影地:五合地区)

C O N T E N T S

#### ふくしま四季彩物語 ..... 2 ~ 3

[ひと・人・ひと]  
東和ロードレース大会の舞台裏を支える  
佐藤輝幸さん ..... 4 ~ 5

[特集] 産業振興と情報発信の拠点  
コラッセふくしま始動 ..... 6 ~ 7

[歴史探訪]  
街から街へ人々を乗せて  
愛すべき街の求心力  
チンチン電車 ..... 8 ~ 9

県政トピックス ..... 10 ~ 11

話題のひろば ..... 11

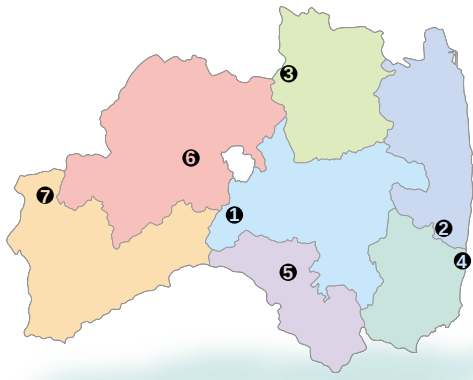
[うつくしまスポット]  
南川溪谷 ~  
五百淵(郡山市) ..... 12 ~ 13

情報ぶらざ  
~ 県からのお知らせ ~ ..... 14 ~ 15

[ふくしまの郷土食]  
いとこ煮(東村) ..... 16

# 四季彩物語

涼しげな風がわたる頃、  
山々はもう、秋の装い。  
胸に刻まれるのは、  
心までが色づいていく  
ふるさとの記憶——。



⑤ 稻杭のシルエット(泉崎村)

古代から変わらずに営まれてきた稲作り。今年もまた、実りの  
時を迎えます (撮影地：関和久地区)

泉崎村産業経済課 ☎0248-53-2111



⑦ 只見線ディーゼル車と蒲生岳(只見町)  
東北のマッターホルンと呼ばれる山容のもと、走り抜けるディーゼル車  
の傍らで揺れるススキが、秋の訪れを感じさせます  
只見町観光まちづくり協会 ☎0241(82)5250



⑥ 会津秋まつりの会津藩公行列(会津若松市)  
市内を練り歩く「会津藩公行列」の人々が、各々の旗の下に集結する姿は、  
まさに勇壮です(9月23日開催)

会津若松市観光課 ☎0242-39-1251

「参加者が多く、暑い時期のレースのため、  
けが人や病人を出さないように努力して  
います」と語る佐藤さん



「であい・ふれあい・はしりあいの  
ロードレースを未来へ——」



東和ロードレース大会の舞台裏を支える

いなほ陸友会会長

# 佐藤輝幸さん

(東和町在住)

ランナーも町民も  
楽しめるレースづくりを

「コース途中にある町民手づくりの給水所、そこで町民とランナーとの交流が図られています。人と人とのふれあいが一番の魅力ですね」

34年の歴史を持ち、各地より毎年約4000人もランナーが集まることから「東北のボストンマラソン」とも称される東和ロードレース大会。この大会の管理・運営にあたる「いなほ陸友会」の会長を務める佐藤輝幸さんは、リーダーが多い理由をこう語ります。

佐藤さんが、歴史あるレースを主催するいなほ陸友会の会長に就任したのは、昨年4月。今

スターターを務める佐藤さん。ランナーは、佐藤さんの鳴らすピストルの音とともに、勢いよく駆けだしていきます

年7月6日に行われた第34回大会は、会長として迎えた2度目の大舞台です。大会当日、レースの進行や表彰の手配を行うスタッフは、ボランティアを含め1,000人以上。そこには、的確な指示を出し、自らもスターターや表彰係として走り回る佐藤さんの姿がありました。

「開催時期が近づく、みんなの熱い思いが溢れてきます。ロードレースは、町を挙げての年中行事。だという思いが、町中に定着しているんです」と佐藤さん。

毎年参加するランナーの中には、町民の自宅に民泊する人もいるとのこと、大会前の町内では県外から訪れたランナーの姿も見受けられます。初代会長の斎藤一夫さん(現・いなほ陸友会OB会会長)が掲げた「であい・ふれあい・はしりあい」というモットーが、参加者にも着実に浸透している証拠です。

「走る人たちが楽しく、つくる側のスタッフも楽しくふれあえるレースづくりをしたい」と、これからの目標を力強く語る佐藤さん。初代会長のロードレースへの熱い思いは、しっかりと若きリーダーへ受け継がれています。



アップダウンの激しいこのコース。だれが呼んだか「登りの地獄坂、下りの極楽坂」という言葉もあるほどです



「親子の部」表彰の一コマ。子どもたちにとっては、記録よりも「記憶」に残る大切なレースとなりました



表彰前は、賞状や記念品の準備などで、すべてが分刻みのスケジュール。佐藤さんの的確な状況判断で、大会が円滑に進行していきます

## 特集

中小企業の育成・支援および観光物産情報や市民サービスの提供を行う複合施設「コラッセふくしま」が、7月25日、ＪＲ福島駅西口にグランドオープンしました。佐藤知事や瀬戸福島市長らによるテープカットが行われた後、3日間にわたって開館記念事業が催され、多くの人たちににぎわいました。さまざまな利用者が集う産業振興と情報発信の新拠点・コラッセふくしまに、各方面から大きな期待が寄せられています。

# コラッセふくしま始動

## 産業振興と情報発信の拠点

待望のグランドオープンを飾ったテープカット



2F

▲中小企業者が抱える経営課題などを解決するため、専門家がアドバイスをを行う県経営支援プラザ。専門図書やビデオなども自由に閲覧できます



▲コラッセと福島駅を結ぶ都市公園周辺で毎日開催される「コラッセ市」。農作物をはじめ県内の物産が販売されます



1F

▲県パスポートセンターも県庁から移転。「便利のいい場所ですね」と申請に来られたご夫妻

▶県内の特産品を各種取りそろえ、展示・販売を行う県観光物産館。イベントは定期的に行われているので、何度訪れても新たな発見ができてそうです



1F



12F

県内各地の食材を使った料理が味わえるレストラン。吾妻連峰や福島市内の夜景を楽しむことのできる新たなスポットとして話題を呼んでいます



3F

▲福島市西口ライブラリーは午後7時まで開館しており、学校や会社帰りの利用にも便利。「オープンを楽しみにしていました」というご家族



6F

▲新たに事業を興そうとしている人に事務スペースなどを提供し、専門家がサポートするインキュベートルーム。「コラッセに入居していることがPRにもなります」と起業家の一人



3~5F

▲3~5階には多目的ホール、会議室、研修室などがあり、用途に応じた利用が可能。開館記念事業の、かんたんホームページ作成講座には幅広い世代の参加がありました

## 「コラッセふくしま」フロアガイド

12F ●展望ラウンジ ●交流サロン  
●レストラン

11F ●福島県信用保証協会

10F ●福島県中小企業団体中央会  
●福島県信用保証協会

9F ●福島県火災共済協同組合  
●福島県商工会連合会  
●福島県商工事業協同組合

8F ●福島商工会議所  
●福島県商工会議所連合会  
●アクサ生命保険(株)福島営業所

7F ●(社)福島県商工会館  
●(財)物産プラザふくしま  
●(財)福島県観光開発公社  
●(社)福島県法人会連合会・(社)福島法人会  
●(株)日本医療事務センター  
●(財)福島県生活衛生営業指導センター  
●福島県環境整備協同組合連合会  
●(株)東北薬理研

6F ●(財)福島県産業振興センター  
●インキュベートルーム

5F ●会議室 ●研修室  
●プレゼンテーションスペース

4F ●多目的ホール ●会議室

3F ●福島市西口ライブラリー ●企画展示室  
●(財)福島市中小企業福祉サービスセンター

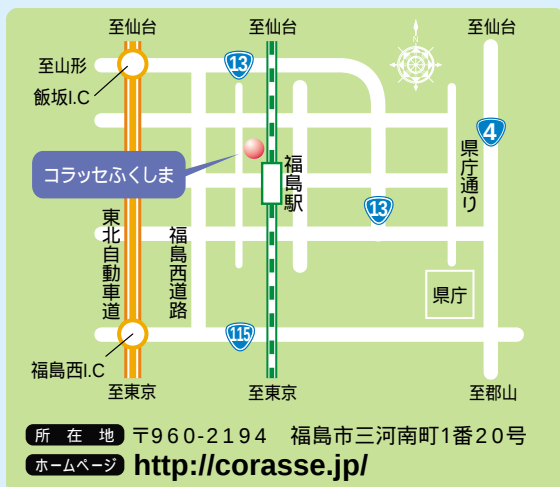
2F ●福島県経営支援プラザ  
●福島市産業交流プラザ

1F ●福島市西口行政サービスコーナー  
●福島県パスポートセンター  
●福島県観光物産館  
●ふくしま情報ステーション ●売店

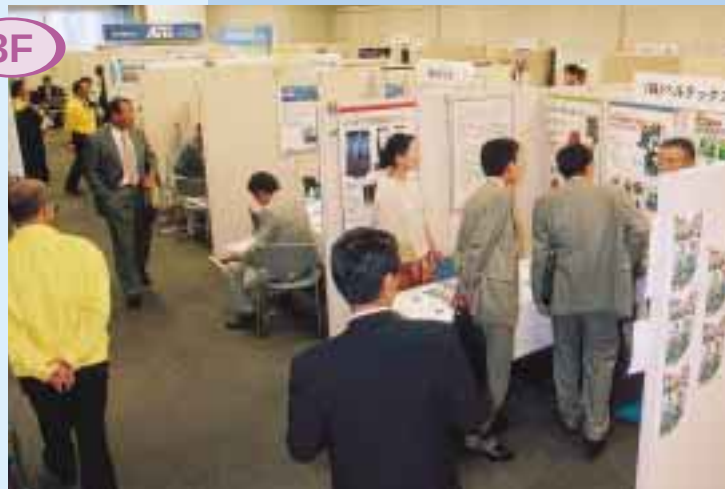


2F

▲福島市産業交流プラザには、子どもたちの「ものづくり」に対する好奇心を育てるモニュメント“からくりファクトリー”などが展示されています



▲企画展示室は、展示会・見本市などの開催が可能な大空間。開館記念事業の県内企業展示商談会には、ITソフト系企業を中心に県内の企業25社が出展しました



3F

# 歴史

## 探訪

「うつくしま」への系譜



路面電車廃止  
記念乗車券

県都・福島市の街中を走り、福島駅前から信達地方（現在の福島市および伊達郡）と呼ばれた地域を結んだ路面電車は、「チンチン電車」の愛称で親しまれ、昭和46年（1971）まで走り続けました。マイカーなど、ほとんど普及していなかった時代、この電車は人々を街から街へと運んでくれる、かけがえない存在でした。ここでは、路面電車廃止の日まで運転手を務めた渋谷義夫さんにお話を伺いながら、街と街、人と人を結んだ「チンチン電車」の果たした役割を振り返ってみました。

### 「地域の足」の誇りを胸に運行

信達軌道株式会社（現・福島交通）が、明治の末期から、福島市と周辺の主要都市を結んで敷設した軽便鉄道を全面電化し、いわゆる「チンチン電車」としてのスタートを切ったのは、大正15年（1926）のことでした。当時、軽便の煙突の火の粉から「本内大火」を引き起こし、信達軌道は莫大な賠償金で窮地に追い込まれていました。それを救ったのが、富山県出身の佐伯宗義（1895～1981）でした。当時親交のあった大火事件の弁護士から「信達軌道の経営を引き受けてみないか」と声

街から街へ人々を乗せて

# 愛すべき街の求心力 チンチン電車



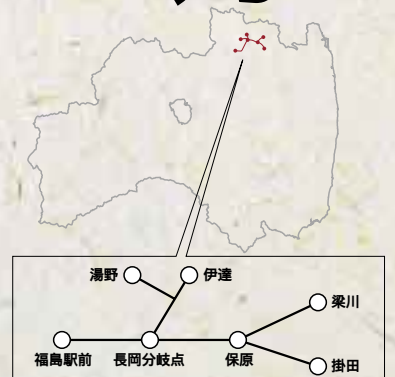
国鉄福島駅前を走る、保原行のチンチン電車（昭和11年）。当時はボールによる電力供給で走行しました

福島駅を出発するチンチン電車。後発の電車が控え、駅に集う市民。昭和三十年代半ばから四十年代のにぎわいの様子がうかがえます

車内は狭く、走行中に切符を切るのは慣れないと大変な仕事でした

「地域と地域を結んでいる誇り。これは運転手の誰もが持っていましたよ」と、渋谷さんは話します。スピードメーターがないチンチン電車を運行ダイヤどおりに走らせるために、運転手は、「ここまで来たら何時何分」と体で時間を覚えて運転しました。また昔の電力供給の手段は、ひし形のパンタグラフではなく、二本のポールでした。これは架線からはずれやすく、それを元に戻すのも、運転手や車掌の役割でした。「雨の時や夜などは、この作業は大変でしたよ」と、渋谷さんは懐かしそうに笑います。

をかけられ、その再建に乗り出した彼は、信達軌道のメインバンク・日本興業銀行に始終出入りしていた人脈から金沢街鉄の社長を知り、鉄道に関する知識を学びました。電化工事の着手から全工程の完成まではわずか一年足らず。佐伯は、千葉の鉄道第二連隊等の「作業演習」の名目でレールの引き替えを行い、実費のみで短期間に工事を完了し、在籍した3年間で信達軌道を見事に立て直しました。軽便がチンチン電車として生まれ変わることができたのは、のちに富山電気鉄道（現・富山地方鉄道）を立ち上げ、立山黒部アルペンルートの開拓にも貢献した彼の辣腕があったからこそでした。



チンチン電車は、福島駅から市街地を走り、伊達の長岡分岐点からは伊達・湯野（飯坂）方面行き、保原・梁川・掛田（雲山）方面行きに分かれて走行しました。地域に欠かせない生活の足であり、まちのシンボルとして愛されました

## ■人々の暮らしを支え、愛された電車

福島駅東口から伊達までの区間と、そこから先では、車内の雰囲気や車窓の風景は、大きく変わりました。戦後から昭和三十年代、福島駅からの街中は、懸命に働く市民の熱気であふれ、サラリーマンや学生で混雑しました。ビルが建ち並ぶまちの都会的な雰囲気の中心を走り抜け、伊達長岡の分岐点を過ぎると、今度はうつて変わって、風景も乗客の様子ものんびりした田舎の良さが漂います。どこから何時にだれが乗ってきて、どこで降りるのか、そんなことも互いに覚えてしまつような、心の通う人と人のつながりが、そこにはありました。

「福島・信夫山の暁まじりの日には、梁川や掛田から増発に次ぐ増発。それでも乗り切れないほどの人々であふれました」と、渋谷さんは話します。街にやってきた若者たちは、その夜をオールナイト興行の映画館で過ごし、朝一番のチンチン電車が福島駅に入ると、黒山の人がだかりになったものでした。

舗装されていない郊外の道では、砂ぼこりを上げながら走りました。線路が土で埋まつてしまった時は、スコップで線路を掘り出してから走ったり、また、雪道の線路に凍り付いた雪をツルハシで取り除いたりと、保線職員は昼夜の別なく、日々運行の確保に全力をあげました。

こうして人々に頼りにされ、愛されてきたチンチン電車ですが、やがて時代の流れに飲み込まれていきます。マイカー社会の到来です。輸送コストの削減や道路の安全確保のため、主役の座を路線バスに譲ることとなったチンチン電車は、昭和46年4月11日、花飾りに彩られ、最後の勇姿をなごり惜しむ市民に見



貨物車両をけん引し、旧伊達橋を渡るチンチン電車(写真上)。いまこの橋は、歩行者用として現役で活躍中です(写真下)



運転の際は、運行時間を示した木札(左)を運転席わきにぶら下げ、運転者名の木札(中央)を運転席後部・乗客側に表示して走行しました(右は、運転席の操作レバー)

送られながら、約半世紀にわたる使命を終えたのです。

## ■心をつなぐ街の求心力を未来へ

定員52人・一両編成で走り続けたチンチン電車。その最高速度は時速40<sup>キ</sup>、街中では時速32<sup>キ</sup>以内で、現代から見ればはるかにのんびりとした交通機関でした。せまい車内でひざを交えながら語り合う乗客、県庁裏の阿武隈川で行われていた花火大会、夏の福島競馬……電車は、人々の表情を見つめ続けてきました。時には貨車と連結し、生活雑貨や地元産の果物を運ぶなど、日々の暮らしと密着し



福島市・県庁通りを走るチンチン電車。ツートンカラーの電車が街中を走る姿は、福島の名物でした

ていたその姿は、いまでも多くの人々の胸に深く刻まれています。

福島市の瀬上小学校に、当時のチンチン電車が今も大切に保存されています。町内を電車が走り、近くには伊達長岡の分岐点もあった地区の人々にとって、チンチン電車は、生活の中に息づいていた、かけがえのない存在でした。この電車を懐かしむ人々に応え、学校創立百周年を迎えた昭和47年に福島交通から譲り受けたのです。それから三十年を経た昨年には、痛みが激しくなった車体を修繕。走っていた当時の姿にお色直しされ、懐かしい姿によみがえりました。同校では総合学習や社会科の時間に、地域を知る貴重な資料とし



瀬上小で保存されるチンチン電車。「電車も車両によって、運転しやすさの違い、相性の良さ悪しがありました。この1119号の運転は、難しかったなあ」と笑う渋谷さん



花で着飾り、中心街をさよなら行進。多くの市民が「ご苦労さま」と労をねぎらい、別れを惜しました

ての利用を進め、学校のシンボル、文化財として大切にされています。

チンチン電車は当時、「交通の妨げになる」という声の一方で、「込まなくて安心して乗れる」「排気ガスもなく、騒音は自動車の方があ」ともいわれていました。時が移り、一人一台のマイカー時代による道路渋滞・騒音・環境問題などを抱えるいま、わたしたちは、チンチン電車のような公共交通機関の利点をどう再構築していくかを、未来への課題にしながらはならないでしょう。どんな時代も、人々の暮らしを支え、心と心をつなぐものが、街の大きな求心力となっていくことを、チンチン電車が残してくれた軌跡に学びながら――。

7月7日

TOPICS

## うつくしま、ふくしまブレッドライバーズ・ セミナー開催



高校生を対象とした「うつくしま、ふくしまブレッドライバーズ・セミナー」がスタートしました。

運転免許取得直前の高校生に、車両の特性や限界、安全な速度を超えることの危険性などを認識させることを目的に、7月から12月まで開催。この日は、福島市の杉妻、東亜の両自動車学校で開かれ、杉妻自動車学校では、福島明成高校の3年生116人が参加しました。生徒たちは、乗車姿勢や死角確認、指導員運転の車に同乗してのコーナリングや危険回避、トラックの巻き込み実験などを4班に分かれて体験しました。

昨年、県内で発生した交通事故で青年ドライバーが第一当事者となったのは3146件で、全体の約21%を占めています。県では、今後もさまざまな事業を通じて若者の事故防止を呼び掛けていくことにしています。

7月12日

TOPICS

## 「あの島より、福島。」キャンペーンがスタート

福島の魅力を全国に伝える県外広報共同事業「あの島より、福島。」キャンペーンがスタートしました。

これまで担当部局が個別に行ってきた県外広報事業を初めて共同化。11月までの約5カ月間、観光PRや開学10周年を迎える会津大学のPR、県企業局が分譲する住宅団地「新白河ライフパーク」の販売促進をテーマに、統一デザインで新聞や雑誌、電車広告などを実施します。



広告のデザインには、来年の新千円札に登場する野口英世を起用。昨夏の新聞広告で好評を得た「あの島より、福島。」をキャッチコピーに、福島県の形をした髪の毛部分をさまざまに見せながら「旅行する先、学び先、暮らす先」として魅力的な福島を全国にアピールします。キャンペーンサイト(anoshimayori.com)も開設しているほか、JR福島駅西口「コラッセふくしま」の県観光物産館には、同デザインの紙袋がお目見えしています。

7月10日

TOPICS

## 特別機動パトロール隊 「青バイ隊」発足

福島市荒井の県警機動センターで県警察本部特別機動パトロール隊「青バイ隊」の指名式が行われました。

街頭犯罪の発生予防と取り締まりの強化のため、狭い街路などでも小回りの効く青色の2500CCバイク（通称青バイ）を配備したもので、青バイ隊の発足は大阪府警に次いで全国2番目。福島分駐隊の6人、郡山分駐隊の8人が隊員に指名され、各2台ずつ青バイが配置されました。

また、この日は、路上強盗と暴走族取り締まりを想定した訓練を実施。本番さながらに、青バイで現場に急行しての犯人逮捕や県警本部で開発したカラスプレー銃を使用した暴走族取り締まりが行われました。

特別機動パトロール隊「青バイ隊」は、機動力を生かし、県民の皆さんの安全な生活を守ります。



7月12日

TOPICS

## アクアマリンふくしま 環境水族館宣言

いわき市小名浜のアクアマリンふくしまが、「海を通して『人と地球の未来』を考える」の理念のもとに、環境水族館宣言をしました。

同宣言は、アクアマリンの開館3周年を記念して行われたもの。佐藤知事のあいさつの後、アクアマリンふくしまの安部義孝館長が、「子供たちの体験的学習の場として充実させ、環境に優しい次世代の育成をめざす」など、5項目にわたる宣言文を読み上げました。引き続き、佐藤知事や安部館長、地元の保育所の児童などが記念プレートとモニュメントの除幕を行いました。

記念プレートは銅製で縦45センチ、横1メートル。モニュメントは直径60センチの円形で、シンボルマークの魚の形に植栽したもの。アクアマリンの入り口付近の芝山に設置され、来館する人たちを迎える新たなシンボルとなります。



## 昭和村 全国カスミソウサミット開催

7月3日と4日の2日間、カスミソウ栽培面積全国一の昭和村で、「全国カスミソウふくしまサミット in 昭和」が開かれました。

消費者主体の生産と栽培技術の向上、産地間の交流を深めるため開催されたサミットには、全国の生産者など約440人が参加。初日は、生産事例報告や大阪府立大の土井元章助教授による講演のほか、夜には村の名物の山菜や川魚のアカハラ料理を囲み、交流を深めました。

2日目は、早朝5時からほ場を視察。世界最大のカスミソウ育種会社社長ミハ・ダンジガー氏の講演や流通業者の実践事例報告、総合討論のあと、大会宣言を採択しました。



7月19日  
TOPICS

## うつくしま21森林づくり 体験交流会開催

うつくしま21森林づくりネットワーク主催の「うつくしま21森林づくり体験交流会」が広野町の五社山ふるさと森で開催されました。

交流会は森・川・海を一体とした上下流の交流を促進し、森林への関心を高め、循環の理念を広めることを目的に、平成13年度から開かれているもの。

緑の少年団やボランティアグループなど約300人が参加し、平成5年に植栽したケヤキ林の下草刈りを体験した後、補植のためのケヤキの苗約200本を植樹しました。

昼食の後は、もりの案内人による森林観察会を実施。参加者は、森・川・海のつながりの説明を聞きながら、ふるさと森の遊歩道を散策し、森林にはぐくまれた自然の恵みを体感していました。



7月24日  
TOPICS

## 知事と語ろう“うつくしま ホームルーム”開催

県立磐城高等学校で、高校生と知事が懇談する「知事と語ろう“うつくしまホームルーム”」が開かれました。

広聴事業の一環として、高校生の豊かな感性からの意見・要望を今後の県政に生かそうとする主旨で開催。

いわき市内の11人の高校生が参加し、前半は、共に支えあつた社会をめざして「がテーマ。高校生からは男女共同参画やボランティア、介護福祉などについて、日ごろ持つ意見、要望などが率直に述べられ、知事が一つ一つ丁寧に対応しました。

後半のフリートークでは、堅さがほぐれた高校生から、知事になった理由を聞かれるなど和やかに進行。知事が、茶道の話題に触れ、「茶道は所作が大切であるように、人生では社会のルールを守ることが大切である」と、高校生に語りかける場面もありました。

## 玉川村 たまかわ文化体育館完成

玉川村が、整備を進めている玉川村総合運動公園(スカイパークたまかわ)に7月11日、たまかわ文化体育館が完成しました。

体育館は、体育系と文化系の機能を併せ持ち、電動移動式観覧席や冷暖房、エレベーターなどを設置したほか、講演や音楽会、演劇などにも対応しています。

また、地域スポーツの拠点となるクラブハウスやトレーニング室、約一万冊収納可能な児童図書室「クックちゃん文庫」なども整備。12月には、村の歴史や空港関係資料を展示した「ふるさと館」が開館します。



# 南川溪谷 ～ 五百淵

市街地で水辺に親しみ、緑を満喫

郡山市



うつくしま  
スポット



さわやかな緑とせせらぎを感じて歩く南川溪谷

郡山市の中央部、国道49号線沿いという市街地にありながら、一歩踏み込めば静寂でのんびりした雰囲気が漂う五百淵公園。そこから南川溪谷へと続く遊歩道を歩けば、日常を忘れさせてくれるような、さわやかな別世界が広がっています。



溪谷の遊歩道は、ふだんから身近な散歩道として親しまれています。川には渡り石などがあって、思わず行き来したくなる子ども心がわいてきます



つり橋を渡りながら眼下を見下ろすと、溪谷と一体になったような気分です



公園の水辺に倒れた木々の枝も、鳥たちにとっては大切な生活の場です



水鳥とふれあったり、遊歩道でくつろぎ、歩いたり、水と緑のオアシスとして親しまれています



豊かな水をたたえた五百淵公園。すぐそばに幹線道路が通っているとは信じられないほどに、静かでのんびりした雰囲気です



安積疏水の分水路だった南川溪谷。そしてかんがい用のため池として造られた五百淵。この二つを結ぶ散策コースは、安積原野と呼ばれたころの原風景を体感できる、貴重な空間です。南川溪谷の両岸は、豊かな緑でおおわれています。せせらぎを眼下に見下ろしながら遊歩道を歩けば、さわやかな森林浴を満喫できます。風情のあるつり橋や渡り石などで、川の向こう側との行き来も楽しいひとときです。

そして五百淵とその南側の林は、まさに野鳥たちの楽園。探鳥のメッカとして知られ、木々や水面に集う野鳥の声を聞きながら、のんびりと散策する人々が集います。公園の散策路沿いにある「郡山市野鳥の森学習館」には、野鳥観察室などが整備され、五百淵周辺の野鳥について学んだり、身近にふれあったりする環境が整えられています。

豊かな自然に包まれながら、四季折々の移ろいを肌で感じ、五感を通して自然とふれあうひとときは、きっとかけがえのない時間になることでしょう。

# 情報ぷらざ

県からのお知らせ

## 催し

### 会津大学キャンパス見学会 秋ステージ

高校生を対象としたキャンパス見学会を開催します。会津大学の教育・研究内容やキャンパスの雰囲気を知っていただく良い機会です。事前の申し込みは不要です。ぜひお越しください。

日時 10月12日(日)午後1時～4時  
(受付は12時30分から)

内容 模擬試験、研究室公開、個別入試相談会、学内見学、大学紹介ビデオの上映など。(当日は大学祭を同時開催) 参加者には過去の入試問題、大学オリジナルグッズを贈呈。

問い合わせ先 会津大学学生課  
☎0242(37)2600

メール [admission@u-aizu.ac.jp](mailto:admission@u-aizu.ac.jp)

### 「うつくしま・ちゅらしま交流フェスティバル」開催

今年2月に沖縄県との間で合意した「うつくしま・ちゅらしま交流宣言」に

基づく交流の一環として、文化・伝統芸能などの競演イベントを開催します。入場無料です。ぜひご来場ください。

日時 10月11日(土)

午前10時30分～午後4時

場所 ビッグパレットふくしま  
(郡山市安積町)

内容 じゃんがら念仏踊りと沖縄の伝統芸能エイサーとの競演、福島と沖縄の民話語り、両県の児童・生徒の伝統芸能披露による交流など

問い合わせ先  
県庁空港企画グループ  
☎024(521)7128

### 動物愛護フェスティバル

飼い犬のしつけ方を学んだり、動物と楽しくふれあっていたり、動物愛護フェスティバルを開催します。



子どもから大人まで楽しめますので、ぜひご参加ください。

日時 9月20日(土)

午後1時～3時30分

内容 動物愛護児童画展、飼い犬のしつけ方教室、盲導犬・フリスビー犬の実演、動物ふれあい広場など

会場 会津総合運動公園ふれあいの丘(会津若松市門田町)

問い合わせ先  
県庁食品安全グループ  
☎024(521)7245

### 9月定例県議会を 傍聴してみませんか

平成15年9月定例県議会は、9月25日(木)開会の予定です。

県議会の本会議は、どなたでも傍聴できます。傍聴席は222席で先着順です。本会議の当日に本庁舎東側玄関の受付で傍聴券を受け取り、本会議場傍聴席へ入場し、傍聴します。

なお、本会議は県議会のホームページ「県議会ふくしまWeb」でも実況中継や録画中継を見ることが出来ます。

ぜひ一度県議会をご覧になってください。

問い合わせ先 県議会事務局議事課

☎024(521)7608

HP <http://www.pref.fukushima.jp/gikai/>

### うつくしま地場産品フェア03

県内の地場産品・焼物・漆器・野菜・食品などの販売とものづくり体験などができるフェアを開催します。

入場は無料です。紅葉狩りにあわせて出かけてみませんか。

日時 10月24日(金)～26日(日)

午前10時～午後5時

(最終日は午後4時まで)

会場 あいづ総合体育館

(会津若松市門田町)

問い合わせ先

うつくしま地場産品フェア実行委員会  
☎0242(39)1252

## 案内

### 県都市計画区域マスタープラン 懇談会について

県では、現在、「都市計画区域マスタープラン」の策定を進めております。

このマスタープランは、市町村の枠を超えた広域的見地から、都市の将来像や土地利用、都市施設の整備などに

関する主要な方針を定めるものです。  
マスタープランに対する皆さんのご理解とご意見をいただくため、懇談会を開催しております。各府部別の日時、会場などについては、お問い合わせください。

問い合わせ先 最寄りの建設事務所  
または県庁都市計画グループ  
☎ 024(521)7507

「警察安全相談」をご利用ください

警察は、犯罪による被害の未然防止および県民の安全と平穏を守るため、「警察安全相談」に応じています。



秘密の厳守を相談の基本としていますので、気軽に相談ください。

警察安全相談  
プッシュ回線は、九一一。または

☎ 024(533)9110

取り扱い時間

平日の午前9時～午後5時

問い合わせ先

県警察本部総合相談課

☎ 024(522)2151

口座振込のお知らせ方法が変わります

10月から、県の支払いを口座振込で行う場合のお知らせ方法を変更します。

従来の口座振込通知書の送付による方法から、振込口座の預金通帳に県機関の略称と支払内容を表記する方法に変更します。県からの振り込みは、通帳の記帳により、ご確認ください。よろしくお願いします。

なお、県機関の略称などは、県ホームページに掲載しております。

問い合わせ先 各地方振興局出納室  
または県庁審査指導グループ

☎ 024(521)7556

HP [http://www.pref.fukushima.jp/shinsa/information\\_top.htm](http://www.pref.fukushima.jp/shinsa/information_top.htm)

お願い

法人土地基本調査・法人建物調査にご協力を

10月に、全国の法人を対象に「法人土地基本調査・法人建物調査」が実施されます。

この調査は、全国の法人の土地や建物の所有状況、利用状況を調査するものです。結果は、統計資料として公表され、土地に関する諸政策の企画・立案の基礎資料とされるほか、学術・研究機関、企業などでも活用されます。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

問い合わせ先  
県庁土地水調整グループ  
☎ 024(521)7124

災害への備えを心掛けてください

9月1日は「防災の日」、8月30日から9月5日は「防災週間」です。



地震や豪雨などの災害は、いつどこに襲ってくるかわかりません。避難場所や非常持出品の確認など、一人ひとりが日ごろから災害への備えを心掛けておくことが大切です。この機会に家庭や地域で再確認してみましょう。

問い合わせ先  
県庁災害対策グループ  
☎ 024(521)7194

県政広報ガイド

|     |             |     |                        |            |                   |                    |                   |
|-----|-------------|-----|------------------------|------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| テレビ | ときめき うつくしま  | FTV | 毎週日曜日<br>9:00 ~ 9:25   | ラジオ        | JUST NOW ふくしま     | rfc                | 毎週土曜日 9:20 ~ 9:40 |
|     | こんにちはふくしま   | FCT | 毎週日曜日<br>11:00 ~ 11:25 |            | 知事さんふれあいトーク       | rfc                | 最終火曜日12:30~12:45  |
|     | ふくしま探訪      | TUF | 第1土曜日<br>7:00 ~ 7:15   |            | ふくしまEVENING BREAK | ふくしまFM             | 月~金曜日17:30~17:35  |
|     | うつくしま、ふくしま。 | KFB | 第2土曜日<br>10:30 ~ 10:45 |            |                   |                    |                   |
| 新聞  |             |     |                        | 目で見える県政    | 福島民報              | 9月14日、10月12日       |                   |
|     |             |     |                        | 県民のページ     | 福島民友              | 9月14日、10月12日       |                   |
|     |             |     |                        | 県政カメラトピックス | 福島民友              | 9月21日              |                   |
|     |             |     |                        | 県からのお知らせ   | 民報・民友             | 9月14・28日、10月12・26日 |                   |



## いとし煮

東村



「いとし煮を作るときは、『昔はこういう風に作ったね』とお互いに話し合いながら、楽しく作るんですよ」と語る(左から)野崎ハツエさん、矢吹花子さん、鈴木テル子さん

### 作り方

材料(4人前)  
ささぎ豆・小豆あわせて1/2カップ、切り干し大根1/5本、さつまいも1本  
砂糖適量、しょう油・塩少々

- ①さつまいもと切り干し大根は乱切りにし、さつまいもはあく抜きする。小豆とささぎ豆と切り干し大根は、前の晩に熱いお湯にひたし柔らかくしておくのがコツ。
- ②小豆は柔らかく、ささぎ豆は八分の柔らかさに煮る。
- ③切り干し大根・さつまいもを鍋に入れ、たっぷりがぶるくらいの水を入れて煮立たせ、あくをすくってささぎ豆を入れ、水気がなくなるくらいまで煮る。
- ④③に小豆と砂糖を入れ、ひと煮立ちさせたら、塩で味をひきしめ、しょう油で味をととのえる。

秋を迎え、切り干し大根をつくるころを迎えると、畑ではさつまいもや小豆、ささぎ豆が実ります。東村ではそんな、季節の身近な食材を使って作る料理「いとし煮」が、作られています。

その名前の由来は、小豆とささぎ豆、豆同土を一緒に煮ることからと言われます。「昔は砂糖なんて手に入らなかったから、さつまいもの甘味が楽しみです、どの家でも作られていました」と話すのは、今回この料理を作ってくれた矢吹花子さんら三人です。

「いとし煮」は、鍋で大人数を煮て、みんなで食べます。日持ちがする料理だけに、寒くなると特にたくさん作り置きしていました。また、それほど物に恵まれていなかった時代、子どものおやつとしても貴重でした。さつまいもと豆類と一緒に煮るので、食物繊維が豊富で、健康食として優れているのはもちろんですが、そこに切り干し大根を加えることで、甘味で胸やけしないように、また食べ飽きないように料理の工夫がなされているのは、この地方ならではのものです。

「本当に、昔の人の知恵というのは素晴らしいものです」と、三人は口を揃えます。

今では砂糖を入れて料理をしますが、ほんの少し、味を調える程度に加えるのがおいしく仕上げる秘けつです。甘すぎない絶妙な味のバランスが、素朴な風味をさらに引き立てます。地元の畑でとれた季節の食材のおいしさをそのまま生かして、みんなでおいしく食べる。そこから広がる笑顔が、「いとし煮」の食卓を囲む人々にとって、一番の「ごちそう」なのかもしれません。



うつくしま、ふくしま。

発行  
福島県県政広報グループ  
〒960-8670 福島市杉妻町2番16号  
☎024-521-7014 FAX024-521-7901  
ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/>  
2003年9月

本誌に関するご意見やご感想などございましたら、  
県政広報グループまでお寄せください